

修士学位請求論文要旨

論文題名

「人情」的な物語としての日本の男性アイドルの現在地
—日韓ドキュメンタリー番組のメディア表象の質的比較分析—

国際日本学研究科 国際日本学専攻
企業・メディア・コンテンツ研究領域
4911222002 劉佳イェン

はじめに

2022年11月、株式会社 SMILE-UP. (旧ジャニーズ事務所) に所属するアイドルグループ・King & Prince のメンバーの脱退と事務所退所の発表が日本の芸能界に衝撃を与えた。2023年、元メンバーの3人による新グループ・Number_i が結成されたことが発表され、再び世間の注目を集めた。

アイドルグループのメンバーの脱退がなぜこのような議論を呼ぶのだろうか。本論文では、この騒動でみられたように、アイドルグループにおける「メンバー」であることが重要であると認識されていることを踏まえて、現代の日本のアイドルグループにおいてファンが重視する価値とは何かについて分析を試みる。

「現代日本のアイドルの表象において『人情』が大切な価値として提示されている傾向があるのではないか」という仮説を立て、アイドルのフィルターを通し、現在の日本社会に求められているものを見つけ出すことができると考える。

なお、本研究において、便宜上、以下、株式会社 SMILE-UP. を「旧ジャニーズ事務所」と言い、現在株式会社 SMILE-UP. に所属するタレントの総称として「ジャニーズ」と呼ぶ。

研究目的

本研究は、アイドルのメディア表象において大切な価値として提示されるものを明らかにすることを目的としている。その際、日本のアイドルグループが提示する価値の特徴をより炙り出すために、韓国のアイドルグループとの比較を行う。

また、「現代日本のアイドルの表象において人情が大切な価値として提示されている傾向があるのではないか」という仮説を検証することは、現在の日本社会で売れるコンテンツとして何が求められているのかについての認識の更新にも寄与すると考える。

研究方法

本研究では、アイドルのインターメディアル的なメディア表象を軸に、先行研究を検討し、ドキュメンタリーコンテンツの展開を整理し、質的データ分析法を用いたうえでドキュメンタリー上のアイドルの描かれ方を分析し、アイドルが提示する価値を抽出するという方法を採用した。

分析にあたり、質的データの扱いに特化し、広く用いられている NVivo 質的データ分析支援ソフトを用いた。具体的には、①ドキュメンタリータイトルを選定し、②テキストのキャプションデータを抽出したテキストデータを一次資料として使い、③データを NVivo にインプットし、頻出単語を抽出し、カテゴリを作成し、④コーディングを行い、コード化の結果を分析し、⑤考察を加えるという手順で進めた。

研究対象として、日本と韓国の代表的な芸能プロダクション・旧ジャニーズ事務所と HYBE の公式ファンクラブの中で会員数が一番多いと思われるグループ・嵐と BTS に焦点を当て、嵐のドキュメンタリーシリーズタイトル「ARASHI's Diary-Voyage-」と BTS の初のドキュ

メンタリーシリーズタイトル「Burn the Stage」を選定した。

研究結果

嵐のドキュメンタリーシリーズタイトル「ARASHI's Diary -Voyage-」において、テキストの頻出語として、「嵐」「気持ち」「ファン」「ありがとう」「前」「楽しむ」「一番」等が特徴的なのである。語られる内容の集計として、メンバー関連（40%）、ファン関連（35%）、個人関連（24%）といった結果になっている。内訳では、メンバーとの仲良さ（24%）、メンバーへの愛着（17%）、ファンのことを思い考える（14%）、ファンに感謝する（9%）といったコードが上位を占めている。

BTSのドキュメンタリーシリーズタイトル「Burn the Stage」において、テキストの頻出語として、「ファン」「BTS」「前」「一緒」「頑張る」等が特徴的なのである。語られる内容の集計として、メンバー関連（39%）、個人関連（32%）、ファン関連（29%）といった結果になっている。内訳では、メンバーとの仲良さ（28%）、メンバーへの愛着（10%）、成長を求める（10%）といったコードが上位を占めている。

ドキュメンタリー分析から、日本の男性アイドルグループと韓国の男性アイドルグループは、グループとファンに深い愛情を注ぎ、グループとして前に向かう方向性で活動し、メンバーと良好的な関係性を持ち、ファンへの感謝を忘れずにファンのことを思い考え続けるといった点は、共通的にファンに提供する価値として捉えることができる。

嵐をはじめとする日本の男性アイドルグループにおいて、相対的に感情面に重きを置く傾向にあり、ファンに提示する価値の中でも、温かみの伝達、気持ちの共有と楽しませるといったところは特徴的なのである。ドキュメンタリー番組から「だってさ、明日も笑えたらいいじゃん、5人でさ、みんなでさ、ねっ」（エピソード19、31:03-31:16）という二宮和也が発した彼に焦点を当てるソロエピソードの最後の一言は、日本の男性アイドルグループのブランド価値が詰まっている象徴的な言葉なのではないかと考えられる。

BTSを筆頭とした韓国の男性アイドルグループでは、相対的に実力面に重要視する傾向にあり、ファンに提示する価値の中でも、質の高いパフォーマンスを見せるところは特徴的なのである。ドキュメンタリー番組の中で自分のライブツアーに対してJUNG KOOKからの「長い時間はみんなに会えない、最高に輝いている自分を、覚えてもらいたかった、だから俺達は一生懸命努力した」（エピソード3、5:41-5:57）という告白が、韓国型アイドルグループのブランド価値が凝縮されている象徴的な発言なのではないかと考えられる。

結論

日本の男性アイドルグループのメディア表象において、大切な価値として提示されているのは「人情」でありながら「愛と楽しさの共有」により特徴づけられることから、現在の日本の男性アイドルグループは「愛情とエンターテインメント性が輝く人情的な物語」を価値として提供しているという結論に洗練させることができると考える。日本の男性アイドル

ルグループは、このようなメディア表象が現代社会に評価されていることを示しているのである。

また、現代日本のアイドルの表象において人情が大切な価値として提示されている傾向があることを検証した。King & Prince のメンバーの脱退や退所の報道が大きい騒動をもたらしたのは、メンバーの間にある人情の方向性がファンの想像したものとのズレが生じたうえ、アイドルとファンをつないできた人情の発信内容と現実の間に、齟齬や不協和音が発生したのではないかと考えられる。

残された課題

アイドルの表象は、他媒体ではまたドキュメンタリー映像と描かれ方が異なっており、本研究で用いた映像分析の手法を適用し、アイドルの表象研究を深めることが可能である。また、日本の男性アイドルと女性アイドルの違い等、比較対象を変えることで新しい知見を得られる可能性がある。本研究では上述の分析は行っておらず、今後の課題と言える。

オリジナリティ

本研究は、ドキュメンタリー映像という新しい資料を活用してアイドルのメディア表象を再考することで、「愛情とエンターテインメント性が輝く人情的な物語」という表現が支持されているのをジャニーズが証明してきたことを見出した点でオリジナリティがあり、その分析結果に基づいて、提示した価値と現実の間の齟齬がもたらす影響についても示唆が得られた点も意義があると考えられる。